天文台への連絡は，両氏共1月29日(J.S.T.)であった．東京天文台では，確認の手配をすると共に，明け方の東空の低空であることを考慮して，菅野－本田天体としてIAUへ連絡した．IAUからはヘルクレス座の新星かも知れない天体を，菅野，本田両氏が発見したという内容の電報が返って来た．1月30.870日に岡山天体物理観測所の乗本祐慈氏により，Hα を含む波長域のスペクトル写真が撮影され，Hα の強い輝線が検出された．

菅野氏により1月28.853日に撮影されたフイルム上で，香西が測定した位置は次の通りである．

赤経＝$18^h41^m26^s.7$，赤緯＝＋15°16′16″ (1950.0)

尚，この新星は日本人により発見された新星，または新星状天体として31個目になり，本田氏にとっては11個目，菅野氏にとっては菅野天体と称されているV1143 Ori に続く2個目ということになる．

(香西洋樹)

旅・星・そしてお酒

水 間 嘉 典*

SLがひく客車に乗って，やっと街に着き，宿に泊まる．朝，天文学会の会場に行く．春と秋の天文学会の講演がはじまる．

そうでない時は，朝早く着く．急行列車か鈍行列車で行く．毛布を持っていって，客車の座席の下か，通路に敷いて，ねてゆく．

駅に着くと，吊床の様にしばって，駅の一時あづけにあづけ，駅前の食堂で朝食をたべ，道をたずねて会場に行く．

現在のように新幹線でいってビジネスホテルに泊まったり，特急の寝台列車で行くことはなかった．

昭和20年代後半より，昭和30年代前半の私の天文学会出席のための旅の前半である．

かえりも，宿で一泊して，朝早い列車でかえるか，やはり夜行の列車に乗って，やはり客車の床に毛布を敷いて，ねてかえる．

男の人も女の人もまたいでゆく．

座席の下でねると，ぐっすりねてしまう．じょう突しようと火災がおころうとそんなのおかまいなくねる．

そして大阪の街にかえりつく．

東京だと，すこしお金を出して前の日の特急でゆくか，走りはじめたビジネス特急「こだま」に乗ったが，多くは夜行の急行列車で朝早く東京駅についた．

天文学会に最初に出席したのは，昭和26年の京都の秋の学会であったと思う．記憶ちがいだと次の28年かも知れない．

大阪から朝早く国電で京都駅に着き，親切な人に教えられて，市電に乗って京大の宇宙物理学教室にいった．

そこで講演を聞いた．

これが大阪ガスで仕事を持っていた私の，それから30有余年続くことになる天文学会の春と秋の出席の始まりであった．

東京・水沢・仙台と宿に泊まる．まくらもとに電話があればもうだめである．天文学会の出席の旅費をかせぐために週2回宿直をした．夜半に電話が鳴れば，ガス洩れの事故である．ぐっすりねていて，新築の家がやけて新品のメーターを焼いた．叱責される．

まくらもとに電話があるとうつらうつら夜半に目がさめる．十年ぐらいつづいた．

宿でゆっくりねむれるようになったのは，ガス機器の品質管理と返品の仕事をするようになってからである．

旅もなかなかであった．

今でこそ新幹線があって近い様な感覚を持つが，大阪東京間は早くて八時間，鈍行だと一日かかった．そのころ姫路発大船行の鈍行列車が日に四列車もあった．

大阪から仙台，水沢までは二日がかりであった．大阪から夜行の青森行の急行列車に乗り，青森から上りの上野行きに乗りついで行けば，水沢は朝である．

仙台は日本海の街でおりて，一日がかりで奥羽山脈をこえて，夕方おそく仙台に着く．

東京から行けば，一日がかりで東京に行き，夜行の列車で仙台は朝である．

東京までを夜行の列車で行き，朝が東京駅．上野より一日がかりで仙台につき，その日泊りで，あくる日から天文学会，おわれば夜行で上野に出て，あくる日，一日がかりで大阪にかえるか，おわった夜は泊まって，あくる日朝早く仙台を出て一日がかりで上野に，そして夜行で大阪へかえる．

どちらも夜行列車で正式の寝台には乗れず，特別三等寝台と称して座席の下か通路に毛布を敷いてねていた．

オハネ10という寝台車に乗ったのはこの寝台車がなくなるすこし前であった．

* Yoshinori Mizuma: